

日本語と韓国語の漢語動名詞の統語範疇をめぐって

尹 亭 仁

1 はじめに

漢字使用の背景をもっている韓国人日本語学習者や日本人韓国語学習者にとって、上達を促す利点の一つが漢語動詞の用法である。それは、(1) (2) に見られるように、日本語の「漢語スル」に相当する構造が韓国語にも存在するからである。

- (1) j. 人口が増加する。[辞] (自動詞)
k. 人口 (인구) 가 ¹⁾ 増加 (증가) 하다.
- (2) j. 悪条件を克服する。[辞] (他動詞)
k. 悪条件 (악조건) 을 ²⁾ 克服 (극복) 하다.

自動詞の「増加スル」に対して韓国語では「増加 하다」が、他動詞の「克服する」に対しては「克服 하다」が対応し、スルの役割を「하다 hada」が担っていることが分かる。しかも、両語におけるこの「漢語スル」と「漢語 하다」の対応は生産的、かつ体系的である³⁾。これらの漢語は形態上では名詞であるが、統語上では動詞としての機能をも持つ動名詞 (Verbal Noun) である (以下では、「漢語 VN スル」を「スル形」、「漢語 VN 하다」を「하다形」と称する)。

ところが、両語のこの漢語 VN の対応には以下のような不一致も見られる。

- (3) j. 工事が完了する。[辞]
k. *工事 (공사) 가 完了 (완료) 하다.

- k' 工事が 完了되다.
- (4) j. サービスが徹底している。[辞]
 k. *서비스가 徹底 (철저) 하고 / 하여 있다.
 k' 서비스가 徹底하다.
- (5) j. エンジンが故障する。[辞]
 k. *엔진이 故障 (고장) 하다.
 k' 엔진이 故障나다.

(3) では「完了」という VN に日本語は能動形のスルが対応しているのに対して、韓国語は受動形とされる「되다」が対応している（以下、「漢語 VN 되다」を「되다 形」と称する）。(4) では「徹底」という VN が日本語では動詞としての活用をしているのに対して、韓国語では形容詞としての活用をしている。また、(5) では「故障」という VN が日本語ではスル形になれるのに対して、韓国語では 하다 形になれないため、「故障나다」という別の述語が対応している。

このように、両語の漢語 VN の対応において、(1) のような自動詞構文には主に (3) (4) (5) に見られるような問題が跨っている。また、(2) のような他動詞構文には、「他動形と使役形」の対応、といった問題が跨っている⁴⁾。

動詞は名詞と違って単語レベルだけでなく文レベルでの誤用にもなりかねる。そのため、両語の類似した仕組みの適用または応用から起こりうる母語干渉を含め、誤用を防ぐためには、まずは現象を把握する必要があると思われる。

本稿では、語数の多い二字漢語を中心に両語の漢語 VN の対応に見られる幾つかの相違、とりわけ、上記の (3) (4) (5) で取り上げた統語範疇の相違に焦点を当て、この違いが両語のどういう違いと関連しているのかを探ってみる。以下では、次のように考察を行う。

- 第2節では、「能動形と受動形の対応」を取り上げ、相違の原因を探る。
 第3節では、「動詞と形容詞の対応」を取り上げ、相違の原因を探る。
 第4節では、「動名詞と名詞の対応」を取り上げ、相違の原因を探る。
 第5節では、今までの考察をまとめる。

2 能動形と受動形の対応

(3) で示したように、日本語の「完了する」に対応する韓国語は「完了하다」ではなく「完了되다」である。この違いは、両語の漢語 VN の対応において最も顕著に見られる現象であり、両語の学習者を最も悩ませている問題でもある。そのため、日韓対照研究の大きなテーマの一つになっている。日本ではこの不一致を中心に生越 (1982, 2001a, 2001b), 辛 (1993), 鷲尾 (1998) などが出されている。

実例をもう少し見てみよう。

- (6) a. k. 19세기 初葉 印度・歐羅巴 語族이 確立된 뒤로 系統的 分類作業이 여러 大陸과 大洋의 語族에 波及되었다. [国語史]
 j. 十九世紀初葉インド・ヨーロッパ語族が確立した後、系統的分類作業が諸大陸と諸大洋に波及した。[日本語訳版]
- b. k. 日本 北部에서 지금은 거의 消滅된 아이누 語는 系統上 孤立되어 있다. [国語史]
 j. 日本北部で現在は殆ど消滅したアイヌ語は系統上孤立している。[日本語訳版]
- c. j. その謎解きが完成したときの喜びは、韓くに言葉を習った人にとって至福といえよう。[はじめて]
 k. 그 수수께끼 풀기가 完成되었을 때의 기쁨은 … (省略)

(6) の「波及する」「孤立する」「完成する」に「波及되다」「孤立되다」「完成되다」が対応している。スルに対応しているこの「되다」は主に能動形の「하다」のペアとして、(7)に見られるように受身文の派生に使われる「受身接辞」⁵⁾である。

- (7) a. k. 그리하여 지난 一世紀 동안 여러 假說이 提起되었던 것이다. [国語史]
 j. そこで過去一世紀間数多くの假説が提起されたのである。
- b. j. 彼らの兵士は徹底的に訓練されるが、しかしまた反抗的である。[菊]
 k. 그들의 兵士는 徹底히 訓練되지만 또한 反抗적이다. [菊]
- c. j. しかしそれは敗北の言い逃れとして捏造されたものではな

い。[菊]

k. 그러나 그것이 敗北의 변명으로서 捏造된 것은 결코 아니다. [국]

(7) の되다 形に対応しているのは (6) と違ってスル形ではなく、受身形のサレルである。

ここまで見てきたスル形, 하다 形, 되다 形の対応を纏めると, (8) のようになる。

(8) スル形, 하다 形, 되다 形の対応関係

漢語 VN スル ⇔ ① 漢語 VN 하다
⇔ ② 漢語 VN 되다 ⇔ ③ 漢語 VN サレル

さて, このような相違は, 一体両語のどのような相違から生じたのだろうか。

両語におけるこのような相違に初めて注目したのは生越 (1982) である。生越 (1982) では①と②の対応について, 韓国語の「하다・되다」形の区別は主語がその「動作の動作主」であるか否かによるものと述べている。この指摘の妥当性は (9) で確認できる。

(9) j. 彼はどんな苦しい時でも挫折しなかった。(生越:1982(8))

k. 그 사람은 어떤 困境에 처했어도 挫折하지 않았다.

また, (10) の「緊張하다」が하다 形になっているのも主語が「動作主」であるからだと捉えられている。

(10) j. 聴衆は緊張して演説を聞いた。(生越:1982(9))

k. 聴衆은 緊張하여 /? 되어 演説을 들었다.

だが, 「緊張する」に対して하다 形が自然なのは, 主節の意志動詞「듣다」との関係も考えられる。複合動詞の語構成などによく見られる現象であるが, 基本的に同じ語彙概念を持つ述語同士が結合または共起するからである。無意志述語「흐르다」が共起している(11)の例を見ると, その違いがはっきり現われる。

- (11) k. 온몸의 神經이 緊張되어 이마에선 식은 땀이 흐른다. [연]
 j. 全身の神經が緊張して額から冷や汗が出る。

また (12) のように連体節に変えると, 「하다・되다」形の選択は変わってくる。

- (12) k. 聽衆은 ? 緊張한/된 雰囲氣 속에서 演說을 들었다.
 j. 聽衆は緊張した雰囲氣の中で演說を聞いた。

これは, 하다 形の選択には「動作主」といった主語の意味役割だけでなく, 構文的条件も関わっていることを意味する。

辛 (1993) でも指摘されたことだが, 主格に立つ名詞が動作主でなくても 하다 形が使われる例は多く見られる。(13) (14) のような例を見てみよう。

- (13) k. 물이 液体에서 氣體로 變化하다. (辛: 1993 (10))
 j. 水が液体から氣體に變化する。
 (14) k. 작은 工場이 大企業으로 發展하다. (辛: 1993 (11))
 j. 小さい工場が大企業に發展する。

(13) (14) の主語「水」「小さい工場」は非情物であり, 動作主にはなれない。辛 (1993) はこれらについて主格の「意図性」と「非意図性」および「自動詞構文」と「自発構文」というペアの概念を用いて説明を試みている。しかし, 「蒸發하다 (蒸發スル)」, 「誕生하다 (誕生スル)」に見られる 하다 形を「意図性」で説明することには納得がいかない。辛 (1993) のこのような観点は, 生越 (1982) とそれほど違わない。「動作主」⁽⁶⁾ という「意味役割」を支える意味特徴が「意図性」であるためである。結局, 「動作主」をその包含概念である「意図性」にすり替えて説明したことである。

生越 (1982, 2001a, 2001b), 辛 (1993) などで, 主語の漢語 VN が表わす事態への関わり方によって, 両語の漢語 VN の対応に見られる相違の一端が明らかになったと思われるが, なぜ (8) のような対応関係が成り立つか, という問題は依然として残っている。

そもそも漢語動詞が複合動詞であることを考えると、前項を成す漢語VNの意味特徴も構文と関係があるが、後項を成す接辞スルと「하다」「되다」の特徴も構文と関係があるのではなかろうか。以下では、両語の接辞スルと「하다」「되다」の意味特徴を(8)の対応関係の第一次的要因として取り上げたい。

2-1 接辞が有する意味特徴

2-1-1 「非能格性」と「非対格性」

最近の研究では、自動詞を意味的観点から2種類に大別している。意図的に動作を行う動作主(agent)を主語に取る「非能格自動詞」(unergative verbs)と意図を持たず受動的に事象にかかわる対象(theme)を主語に取る「非対格自動詞」(unaccusative verbs)がそれである⁷⁾。よって、(15)の動詞が表わす文の主語の意味役割は「動作主」、(16)は「対象」になる。

(15) 非能格自動詞

遊ぶ, 歩く, 走る, 降りる, 泳ぐ, 叫ぶ, 喚く, 帰る

(16) 非対格自動詞⁸⁾

開く, 空く, 開く, 沸く, 燃える, 沈む, 落ちる, 崩れる

このように、同じ自動詞でもそれが表わす事態に主語がどう関わるかによって違いがある。これは従来ヲ格標示の名詞句との共起関係を以て自動詞と他動詞に分けた形態統語的分類より進んだ意味統語的分類といえよう。また「非能格自動詞」と同じ意味特徴を有する他動詞を含めて「非能格動詞」、反対概念として「非対格動詞」がある。以下では、(15)のような非能格動詞が有する意味特徴を「非能格性」、(16)のような非対格動詞が有する意味特徴を「非対格性」と呼ぼう。

また、文脈によっては(17)のように両方の性格を見せる動詞もある。

- (17) a. 母はデパートへ買い物に行った。(非能格性) [用法]
 b. 計画がうまくいった。(非対格性) [用法]

2-1-2 スルが有する「非対格性」と「非能格性」

上で動詞はそれぞれが持つ意味特徴によって「非能格動詞」と「非対格動詞」に分けられることを見た。以下ではそれに従い、複合動詞の漢語 VN スルにおいて後項をなす接辞スルの本動詞としての意味特徴を見てみよう。

- (18) a. 物音がする。[用法]
 b. 寒気がする。[用法]
 c. 変な味がする。[辞]
 d. 頭痛がする。[辞]

(18) の例から分かるように、本動詞スルは「物音」「寒気」「変な味」「頭痛」など非情物を主語に取ることができる。これらの主語はスルという動作の主体、すなわち「動作主」ではない⁹⁾。言い換えれば、スルは「非対格性」を持っていることである。

またスルには (19) のような用法も見られる。

- (19) a. 先生は科学の実験をした。[用法]
 b. 彼らは重要な会議をした。[用法]
 c. 父は毎朝散歩をする。

(19) の主語「先生」「彼ら」「父」は自ら意志を持って動作を行う動作主である。つまり、スルは「非能格性」も有しているのである。

「スル」がこのように「非対格性」も「非能格性」も有していることが (20) (21) (22) のような「自他両用動詞」を成り立たせていると思われる¹⁰⁾。この場合、韓国語は、他動詞は「하다」が、自動詞は「되다」が対応する。

- | | | |
|------|----------------------------|-------------------------|
| (20) | 制限を <u>緩和</u> する。[辞] | 制限을 <u>緩和</u> 하다. |
| | 寒さが <u>緩和</u> する。[辞] | 추위가 <u>緩和</u> 되다. |
| (21) | 彼女は長年の夢を <u>実現</u> した。[用法] | 그녀는 오랜 꿈을 <u>実現</u> 했다. |
| | 希望が <u>実現</u> する。[辞] | 希望이 <u>實現</u> 되다. |

- (22) 作文をようやく完成した。[用法] 作文을 完成했다.
 作品が完成する。[用法] 作品이 完成되다.

さらに、(23ab) の非対格自動詞構文と「ニ受身構文」、(24ab) の非対格自動詞構文と「ニヨotte受身構文」が構造的に平行していることもスルのこのような性格と関係があると思われる。この場合も、韓国語は受身形が対応している。

- (23) a. j. コレラに感染する。[辞]
 k. 콜레라에 感染되다.
 b. j. 緑石は風雨にさらされて奇妙な白濁色に変色し[ノルウェイ]
 k. 緑石은 風雨에 시달려 ¹¹⁾...
- (24) a. j. 首脳会談により和平交渉は大幅に進展した。[上級動詞]
 k. 首脳會談에 의해 平和交渉은 크게 進展되었다.
 b. j. 母は血筋を重んじる韓国社会で、親戚の手により殺された。
 [オリーブ]
 k. 어머니는 혈통을 중시하는 韓國社会에서 親戚의 손에 의해
 殺害당했다.

ここまでの考察から、漢語動詞の後項をなすスルは非能格性も非対格性も有していることが分かった。これに対して、「하다」はどうであろう。

2-1-3 「하다」が有する「非能格性」

ここからは、漢語 VN スルに対応する漢語 VN 하다において後項をなす接辞 하다 の本動詞としての意味特徴を見てみよう。(18) のスルの用法と比較すると (25) のようになる。

- (25=18) a. j. 物音がする。[用法]
 k. 소리가 나다. /*하다
 b. j. 寒気がする。[用法]
 k. 寒氣가 들다. /*하다
 c. j. 変な味がする。[辞]
 k. 이상한 맛이 나다. /*하다

- d. j. 頭痛がする。[辞]
 k. 머리가 아프다. /*하다

いずれも 하다 は対応できないことが分かる。『現代韓国語動詞構文辞典』に載っている本動詞「하다」からも非情物主語の自動詞文は見当たらなかった。さらに、『延世韓国語辞典』に載っている本動詞「하다」からも非情物主語の自動詞文は見当たらなかった。これは, 하다 がスルと違って「非対格性」を有していないことを表わす。

「하다」の用法は(26)に見られるように, 「先生님」「그들」「아버지」のような有情物を主語に取る構文に限ると思われる。(19) で取り上げた「非能格性」のスルの構文を用いて確認してみよう。

- (26=19) a. j. 先生は科学の実験をした。
 k. 先生님은 科学実験 을 했다.
 b. j. 彼らは重要な会議をした。
 k. 그들은 重要 한 會議 을 했다.
 c. j. 父は毎朝散歩をする。
 k. 아버지는 매일 아침 散歩 를 한다.

いずれもスルと「하다」が対応していることが分かる。これは「하다」がスルと同様「非能格性」を有していることを意味する。

ここまでの考察から, 非情物主語と共起できるかどうか両語の漢語動詞における「自動形と受動形」の選択の相異をもたらしていると思われる。(3) と (7) で取り上げたスル構文は, 「工事」「系統的分類作業」「インド・ヨーロッパ語族」「アイヌ語」といった非情物主語の「非対格構文」であるため, 非能格性を有している「하다」は対応できなかったと思われる。

次は, このような非対格性のスルに対応している「되다」の意味特徴を見てみよう。

2-1-4 「되다」が有する「非対格性」

まず, 「되다」の幾つかの用例を見てみよう。

- (27) a. k. 무법천지가 되다. [東亞]
 j. 無法地帯となる。
 b. k. 일이 제대로 되다. [東亞]
 j. ことがうまく行く。
 c. k. 봄이 되다. [東亞]
 j. 春になる。

(27) から分かるように、「되다」はスルと同じく非情物主語と共起できる。これは、言い換えれば主語の意味役割は「対象」であり、「되다」は「非対格性」を有していることである。「되다」は有情物主語とも共起可能だが、(28)のように項構造が変わる。つまり、主語だけでなく変化した結果を表わすもう一つの名詞句が必要である。

- (28) a. k. 그가 대통령이 되었다. [東亞]
 j. 彼が大統領になった。
 b. k. 영숙이가 반장이 되었어요. [東亞]
 j. 英淑が班長になりましたよ。

(27) のように「되다」に関わる名詞句が一つ（1項構文）であれ、(28)のように二つ（2項構文）であれ、「되다」構文の主語が「動作主」でないことには変わりがない。「되다」は日本語のナルと同様、結果状態を表わす典型的な非対格動詞である。

ここまでの考察を纏めると、(29)のようになる。

(29) 接辞の意味特徴

接辞	意味特徴
스ル	[非能格性] [非対格性]
하다	[非能格性]
되다	[非対格性]

また、漢語 VN の意味特徴と接辞の選択との関係は (30) のようになる。

(30) 漢語 VN の意味特徴と接辞の選択

	日本語	韓国語
[非対格性] の漢語 VN	[非対格性] のスル	되다
[非能格性] の漢語 VN	[非能格性] の스	하다

ここまでの考察から、日本語のスル形に対応する韓国語의 하다 形と 되다 形の選択には接辞스と「하다」「되다」の本動詞としての意味特徴が大きく関与していることが分かった。両語のこの違いが (8) に見られる対応関係の相違をもたらした第一次的要因であると思われる。

しかし、(13) (14) のように漢語 VN が非対格性なのに、非能格性の接辞「하다」を取る問題はまだ解明されていない。漢語が日本語や韓国語と違って表意文字であることを考えると、VN をなしている二字漢語それぞれの語彙的要素も大きく関わっていることは言うまでもない。また、(10) (11) (12) に見られるように、主節に現れるのか、連体節に現れるのか、非能格動詞が主節にある従属節に現れるか、(13) (14) に見られるように二格名詞句が共起するかどうかなど、構文的条件も関わっているので、稿を改めて詳しく取り上げたい。

3 動詞と形容詞の対応

「能動形と受動形」の対応に比べると、数の上でも少ないため目立たない現象ではあるが、同じ漢語なのに両語において品詞が異なる場合がある。(4) に取り上げたように、日本語では動詞としての用法を持つが、韓国語では形容詞としての用法を持つ漢語がある。もう少し、実例を見てみよう。

- (31) a. j. サービスが徹底している。[辞] (=4)
 k. *서비스가 徹底 (철저) 하고 / 하여 있다.
 k'. 서비스가 徹底하다.
 b. j. 価格が一定している。[辞]
 k. *가격 (가격) 이 一定 (일정) 하고 / 하여 있다.
 k'. 가격이 一定하다.
 c. j. 食糧が不足している [用法]
 k. *食糧 (식량) 이 不足 (부족) 하고 / 하여 있다.

- k'. 食糧이 不足하다.
- (32) a. j. 我々に不足しているものは何か [準2級]
 k. *우리들에게 不足 (부족) 하고 있는 것은 무엇인가?
 k'. 우리들에게 不足한 것은 무엇인가?
- b. j. ますます肥大する情報産業 [辞]
 k. *점점 肥大 (비대) 하는 情報産業
 k'. 점점 肥大해 지는 情報産業
- (33) j. 僕が混乱するとアイロンかけをするということを… [ねじ]
 k. *내가 混乱 하면 다리미질을 한다는 것을…
 k'. 내가 混乱 스러워지면 다리미질을 한다는 것을…

(31) は主節に見られる不一致, (32) は連体節に見られる不一致, (33) は従属節に見られる不一致である。まず, (31) を見ると, 「徹底する」「一定する」「不足する」は動詞であるため, 「徹底している」「一定している」「不足している」の進行形が取れる。しかし, 韓国語では形容詞であるため, 進行形を取ることができない。そのため, 基本形が対応している。

また, (32) の「肥大する」も「不足する」と同様動詞であるのに対して, 韓国語の「肥大하다」は形容詞であるため, そのままでは対応できず, 形容詞を動詞に転成する補助動詞「-지다」と結合して「肥大해지다」の動詞形で対応している。

さらに, (33) の「混乱する」も動詞であるのに対して, 韓国語の「混乱하다 / 스러다」は形容詞であるため, 同じく補助動詞「-지다」と結合して「混乱스러워지다」の動詞形となって対応している。

両語のこのような違いから起因すると思われるが, 20年以上の韓国語学習歴を持っている日本語ネイティブスピーカーからも (34k) (35k) のような誤用を耳にしたことがある。

- (34) k. *条件 (조건)이 一定 (일정) 하고 있다.
 j. 条件が一定している.
 k'. 条件이 一定하다.
 j'. *条件が一定だ.
- (35) k. *人材 (인재)가 不足 (부족) 하고 있다.

- j. 人材が不足している。
 k'. 人材 (인재)가 不足하다.
 j'. *人材が不足だ。

このような母語干渉を防ぐために、また混乱を来たさないために両語の学習者に (36) のように品詞の不一致を見せている語彙リストを提示するのも一つの方法であろう。

- (36) 傑出する, 卓越する, 団欒する, 透徹する, 適合する, 混迷する, 乱暴する, 不足する, 満足する, 充満する, 和睦する, 奔走する, 密集する, 密接する, 謙遜する, 切迫する, 貧乏する, 充血する, 肥大する, 類似する, 乾燥する, 混雑する, 充実する, 散乱する, 近似する, 優越する, …

これらの例とは反対の, 韓国語で漢語動詞であるのに, 日本語で形容動詞の例は今のところ見当たらない。

両語にはさらに (37) のような機能上の違いも見られる。

- (37) a. まだ不足を言う。[辞]
 b. 趣旨の徹底を欠く。[辞]
 c. 乱暴を働く。[辞]
 d. 楽しい団欒の一時を過ごす。[辞]

(37) に見られるように, 日本語の「不足」「徹底」「乱暴」「団欒」は名詞としての機能も持っている。しかし, 韓国語の中での「不足 (부족)」 「徹底 (철저)」 「乱暴 (난폭)」 「団欒 (단란)」 としては非文法的である¹²⁾。なぜなら, 上記で考察したように, これらは漢語動詞ではなく, 漢語形容詞である。漢語形容詞の場合, 漢語語幹だけが分離し, 自立語として機能することはできない。日本語のように文法的になるためには, すなわち名詞形としての働きをするためには, 「不足하다」は, 語幹「不足하-」に転成名詞語尾の「口」を付加して「不足함」に, 「徹底」は「徹底함」にならなければならない。「乱暴함」「団欒함」も同じである。

両語のこの違いは, 以下で見るように漢語 VN が表わす事態を「動作」

を中心に捉えるか、「状態」を中心に捉えるかにある。また、両語の活用の形態も関係があると思われる。

3-1 「動作」か「状態」か

3-1-1 動詞と形容詞

まず、上位カテゴリーは同じく「用言」である動詞と形容詞の違いをそれぞれの辞書的説明から見てみよう。(38)が動詞の説明であり、(39)が形容詞の説明である。

(38) 語の表わす内容が時間の経過とともに変化する(動く)ので動詞の名称が与えられる。同じ用言に属する形容詞の表わす内容が状態という持続的内容を持つのに対する動詞の特徴である。動詞の表わす内容は、動作・作用・存在である。[日本語文法大辞典：520]

(39) 事物がどういう状態にあるかを表わして述語となり、動詞・形容動詞とともに用言の一つであるが、動詞の表わす動作・作用といった時間の経過に伴う変化が意識されない。事物の状態を持続的なこととして捉えて表わす所に「形容詞」の特徴がある。[日本語文法大辞典：227]

この説明のように、動詞と形容詞の違いは「動作・作用・存在」と「状態」というふうに明らかである。しかし、「ある」「要る」「できる」のように、語彙的意味によっては「状態性」を帯びている動詞もある。これが寺村(1982：62)で言っている「品詞間の連続性」であろう。

3-2 韓国語の動詞と形容詞

3-2-1 形態

韓国語の場合、漢語動詞も漢語形容詞も(40)のように하다形と共起するため、その派生が日本語より連続的である。同じ하다形になるため、漢語が帯びている属性の違い—動作性と状態性—による派生がスムーズに行われる。日本語の「スル」と形容動詞の「ダ」との隔たりに比べると大きな違いである。

(40) 韓国語と日本語の漢語用言の派生

韓国語	動作性の漢語	漢語+ <u>하다</u>	例) 運動 <u>하다</u>
	状態性の漢語	漢語+ <u>하다</u>	例) 健康 <u>하다</u>
日本語	動作性の漢語	漢語+ <u>スル</u>	例) 運動 <u>する</u>
	状態性の漢語	漢語+ <u>ダ</u>	例) 健康 <u>ダ</u>

日本語も韓国語も同じく漢字をその言語体系の中に取り入れたが、(40)に見られるように、韓国語は動詞に便乗した活用を、日本語は名詞に便乗した活用をしていることが分かる。

3-2-2 活用形と品詞の判別

韓国語の漢語動詞と漢語形容詞は基本形が同形であるため、形態的には区別がつかない。そのため、(36)に提示したスル形に全部 하다 形が対応する。ただし、活用形に違いがあることを手がかりに、すなわち形容詞は「動作性」を帯びないため、(41)のように現在連体形の「하는」「하고 있는」、または現在終止形の「한다」「하고 있다」が取れるか否かで品詞判断をする。これは、日本語の動詞と形容詞が形態的にはっきりしているのとは対照的であるが、ナ活用形を以て「形容動詞」と「名詞」を区別するのとは似通っている。

(41) 韓国語の漢語動詞と漢語形容詞の区分

	漢語動詞	漢語形容詞
基本形	漢語 <u>하다</u>	漢語 <u>하다</u>
例	運動 <u>하다</u>	健康 <u>하다</u>
現在連体形	運動 <u>하는</u>	*健康 <u>하는</u> 健康 <u>한</u>
現在連体形	運動 <u>하고 있는</u>	*健康 <u>하고 있는</u>
過去連体形	運動 <u>한</u>	*
現在終止形	運動 <u>한다</u>	*健康 <u>한다</u>
現在終止形	運動 <u>하고 있다</u>	*健康 <u>하고 있다</u>

(41)に見られるように、形容詞の現在連体形「健康-한」が動詞の過去

連体形「運動-한」と同形である。過去形を用いて現在の状態を表わすことは、動詞と形容詞が派生において隣接していることと関係があると思われる。この興味深い現象は次に取り上げる日本語にも見られる。

3-3 日本語の漢語 VN の「状態性」

漢語の中には「動作性」の属性が強い語と「状態性」の属性が強い語がある。前者は「動詞」に、後者は「形容詞」になる。しかしながら、一方に属してはいるものの、マージナルな性格を持つ語もある。統語範疇において、韓国語では形容詞なのに日本語では動詞と分類される (36) のような語の中から、他の漢語 VN と違う振る舞いが見られる。

3-3-1 連体形

連体形の場合、(42)(43) のように、常に過去形で用いられる。

- (42) a. 徹底した平和主義者 [辞]
 b. 卓越した力を示す。[辞]
 c. 傑出した力量を示す。[辞]
- (43) a. 緊迫した情勢 [辞]
 b. 充実した日々を過ごす。[辞]
 c. その想念が、切迫した私の心情と同様に、切迫したこの京の歴史の罅割れをも、隠蔽できるとでも思ったというのか。
 [はじめて]

(42) の場合は主語の「状態」より「属性」に近い。漢語 VN のこのような特徴は、前節で取り上げた韓国語の漢語形容詞が動詞の過去形と同じ形態を用いて現在を表わしていることと類似している。日本語と韓国語の形容詞がヨーロッパ言語と違って時制を伴っていることは大きな特徴であるように思われる。

3-3-2 終止形

終止形の場合、(44) のように、「-ている」で用いられることが多い。これによって動作ではなく、状態を表わしているのであろう。

- (44) a. 神経がひどく衰弱している。[辞]
 b. 価格が一定している。[辞]
 c. 頭の中が混乱している。[辞]

ここまでの考察から、日本語の中で一部の漢語 VN は動詞に分類されても、韓国語で見たような形容詞的要素もあって、振る舞いに違いがあることが分かった。この点については韓国語と合わせて考察する必要があると思われる。

以上で、同じ漢字なのに日本語では「動詞」、韓国語では「形容詞」に分類される語を取り上げ、用法上の違いを見てきた。両語のこの違いは、漢語が表わす事態を「動作」として捉えるか、「状態」として捉えるかによるものではあるが、漢語 VN が持つ意味特徴も関与していることが確認できたと思われる。また、これらは第 2 節で取り上げた「能動形と受動形」の対応より顕著な現象ではないが、用言の活用の仕組みと深く関わっていて、両語の特質を表わす重要な現象であると思われる。

4 動名詞と名詞の対応

一部の漢語名詞は、日本語ではスルと共起して動詞としての機能も持っているが、韓国語では「하다」とは共起できなく名詞としての機能しか持っていない。また逆の場合もある。この相違から (45) (46) のような用法上の相違が見られる。

- (45=5) j. エンジンが故障する。[辞]
 k. *엔진이 故障 (고장) 하다.
 k'. 엔진이 故障 나다
 (46) k. 나라와 겨레를 위해 한 몸 희생하다.
 j. *国と民族のため一身を犠牲する。
 j'. 国と民族のため一身を犠牲にする。

(45) の「故障スル」のスル形に対して、「故障 하다」という 하다 形は存在せず、「故障 (이) 나다」という別の動詞句が対応している。また、逆の例として、(46) の「犠牲 하다」の 하다 形に対して「犠牲スル」というスル形は存在せず、「犠牲に / となる」という別の動詞句が対応して

いる。次のような例が挙げられる。

- (47) 影響スル/*하다, 孝行スル/*하다, 落葉スル/*하다, 邪魔スル/*하다,
上下スル/*하다, 勝負スル/*하다, 成人スル/*하다, 帰趨スル/*하다,
難航スル/*하다, 前提スル/*하다, 中毒スル/*하다
- (48) 同学*スル/하다, 殺人*スル/하다, 犠牲*スル/하다, 内外*スル/하다,
同業*スル/하다, 安静*スル/하다, 燻製*スル/하다, 麻醉*スル/하다
- (49) 用意スル/*?하다, 信仰スル/*?하다, 受験スル/*?하다

(47) は日本語では漢語 VN であるのに対して韓国語では漢語名詞の場合である。(48) は韓国語では漢語 VN であるのに対して日本語では漢語名詞の場合である。(49) は韓国の辞書では漢語 VN として登録されているが、「用意하다」「信仰하다」「受験하다」のような하다形の用法はほとんど見られない場合である。これらは名詞としての用法が中心で、(47) に接近している漢語である。

両語のこのような相違は、第2節の「能動形と受動形」、第3節の「動詞と形容詞」と違って、体系的に捉えにくい面がある。森田(1994)に、中国の留学生が見せた「*同学スル」「*殺人スル」のような誤用例が載っている。これは上記の例から分かるように、韓国人留学生も起こしうる誤用である。

両語のこのような相違には、漢語 VN とスルまたは하다との共起如何も関係するが、両語と漢語との関係、すなわち「言語接触」「借用」といった言語の外側の側面とも関係があると思われる。本稿では、統語範疇を異にする語を提示するだけにとどまり、それらの検証は他の論文に譲りたい。

5 おわりに

本稿では、日本語と韓国語の「漢語 VN スル」と「漢語 VN 하다」の対応に見られる三つの統語範疇の相違を取り上げた。考察の結果を纏めると次のようになる。

第2節では、「能動形と受動形の対応」を取り上げた。能動形のスルに対して韓国語は能動形の「하다」と受動形の「되다」の2種類の接辞が対応していることは、スルが有する意味特徴、すなわち「非能格性」

と「非対格性」によるものと論じた。

第3節では、「動詞と形容詞の対応」を取り上げた。韓国語の場合、状態性を帯びている漢語が形容詞になりやすいのは形容詞の派生が動詞と同じく 하다 形を取り、その派生が隣接しているからである。日本語の漢語形容動詞は名詞寄りの活用をしているのに対して、韓国語の漢語形容詞は動詞寄りの活用をしていることも合わせて論じた。

第4節では、「動名詞と名詞の対応」を取り上げた。これはスルと 하다 との共起関係だけではなく言語接触といった言語の外側の側面とも関係があると論じた。

本稿での考察で、両語の漢語動詞の用法に跨っている問題およびそれが両語のどういう側面と関わっているのかは明らかになったと思われる。しかし、詳しい検証、分析などは残されている。今後さらなる解明に取り組んでいきたい。

注

- 1 日本語の主格助詞ガに当たる助詞で、先行音節が母音で終わると「가」, 子音で終わると「이」が対応する。ガとその用法が必ずしも一致するものではない。
- 2 日本語の対格助詞ヲに当たる助詞で、先行音節が母音で終わると「가」(縮約形は「이」), 子音で終わると「가」が対応する。ヲとその用法が必ずしも一致するものではない。
- 3 例えば、『日本語基本動詞用法辞典』に載っている基本動詞 728 語のうち、二字漢語スルは 165 語で、全体の 22.7% を占めている。これに対応する二字漢語 하다 は 144 語で、87.2% の割合である。また、『菊と刀』の日本語訳版(1972)と韓国語訳版(1991)の「第9章」を調べてみた結果、漢語スルは 122 語、この訳語となる韓国語動詞のうち二字漢語 하다 は 114 語で、93.4% の割合であった。
- 4 この問題については別稿を準備している。
- 5 韓国語の受身接辞に関しては尹(2002)を参照されたい。
- 6 Lyons(1977)は、「動作主」(agent)を「自分の意図で、自力で自身あるいは他の個体の属性・位置の変化を引き起こせる有情の個体」と定義している。
- 7 この分類は Perlmutter (1978) から本格化した。日本では影山(1993)以降多く取り上げられている。韓国ではこの分類の妥当性は認めながら、形容詞が含まれることから「行為性自動詞」と「非行為性自動詞」に分ける研究も

ある。

- 8 尹 (1999) では、日本語における非対格自動詞は寺村 (1982) での「相対自動詞」、早津 (1987) での「有対自動詞」とほぼ一致すると見做している。しかし、研究者によっては、「行く」のような「無対自動詞」を非情物主語が可能であることから「非対格自動詞」に分類する場合もある。定義を含め、より厳密な分類基準が必要であると思われる。
- 9 認識の主体をもう一つの主語として立てるにしても、その主語の意味役割は「動作主」ではなく、「経験者」になる。
- 10 森田 (1994:260) によると、『岩波国語辞典』(第二版) では、自他両用動詞が全体の 4.17 % を占めている。
- 11 「시달리다」は受身文と同じ文構造をなすにも関わらず、「*시달다」という対応する他動詞がないため、自動詞扱いされている。しかし、「달다」「달리다」という対応が成り立つため、2 次派生の受身形と見做す。形態的にも受身接辞「리」が含まれ、統語的にも他の受身文と平行していて、また受身の意味合いを帯びている。
- 12 「내적 충실(内的 充実)을 꾀하다」「혼잡(混雑)을 꾀하기 위해」「그 사람의 행복(幸福)/ 건강(健康)을 위해」「그다지 큰 혼란(混乱)은 없었다」のように、形容詞語幹でありながら、単独で名詞形として使われる漢語もある。日本語の形容動詞に類似した用法であるが、このような類の漢語は別の考察が必要であると思われる。

参考文献

- 李基文 (1998), 『新訂版 国語史概説』, 太学社 (ソウル)
- 『延世韓国語辞典』(1998), 斗山東亜
- 生越直樹 (1982), 「日本語漢語動詞における能動と受動: 朝鮮語 hata 動詞との対照」, 『日本語教育』48号
- 生越直樹 (2001a), 「現代朝鮮語の 하다 動詞における 하다 形と 되다 形」, 『朝鮮文化研究』8, 東京大学大学院人文社会系研究科付属文化交流施設朝鮮文化部門
- 生越直樹 (2001b), 「하다 動詞의 하다 形・되다 形의 使い方について—インフォマント調査の結果から—」, 『韓日語文学論叢』, 太学社 (ソウル)
- 影山太郎 (1993), 『語構成と文法』, ひつじ書房
- 『現代韓国語動詞構文辞典』(1997), 斗山東亜 (ソウル)
- 金允植・呉仁錫訳 (1991), 『完訳版 국화와 칸—일본 문화의 틀』, 乙酉文化社 (ソウル)
- 辛碩基 (1993), 「日本語と韓国語の漢語動詞」, 『日本語と日本文学』第 18 号, つくば大学国語国文学会
- 寺村秀夫 (1982), 『日本語のシンタクスと意味 I』, くろしお出版

- 『東亜新国語辞典』(1989), 斗山東亜
 『日本語文法大辞典』(2001), 明治書院
 長谷川松治訳(1972), 『定訳 菊と刀—日本文化の型』, 社会思想社
 早津恵美子(1989), 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に」, 『言語研究』95
 森田良行(1994), 『動詞の意味論的文法研究』, 明治書院
 尹亭仁(1999), 「日本語と韓国語の使役構文の対照研究—結果含意を中心に」, 『言語情報科学研究』4, 東京大学言語情報科学研究会
 尹亭仁(2002), 「朝鮮語の語彙的受身文における動作主標示について—動作主標示のある受身文を中心に—」, 神奈川大学対照言語学研究会での発表要旨
 Lyons John(1977), *Semantics 2*, Cambridge University Press
 鷺尾龍一(1998), 「韓国語漢語動詞における動詞選択の問題—「封應하다, 封應되다」の場合」, 『先端的言語理論の構築とその多角的な実証(2-A)』, COE 形成基礎研究費報告書

用例出典

- [オリーブ] 『オリーブ』, DHC
 [菊] 『菊と刀』
 [国語史] 『国語史概説』
 [辞] 『大辞林』, 三省堂
 [準2級] 『ハングル能力検定試験2級+準2級』(2002), ハングル能力検定協会
 [上級動詞] 『すぐに使える上級動詞』(2000), アルク
 [東亜] 『東亜新国語辞典』
 [日本語訳版] 『韓国語の歴史』(『国語史概説』日本語版)(1975), 大修館書店
 [ねじ] 『ねじまき鳥』(1994), 新潮社
 [ノルウェイ] 『ノルウェイの森(上)』(1989), 講談社
 [はじめて] 『韓国語はじめての一步』(2000), ちくま新書
 [用法] 『日本語基本動詞用法辞典』(1989), 大修館書店
 [국] 『국화와 칼』
 [연] 『延世韓国語辞典』